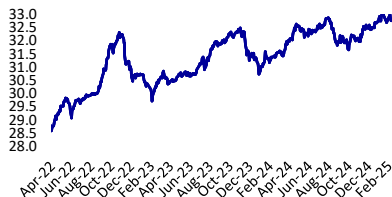
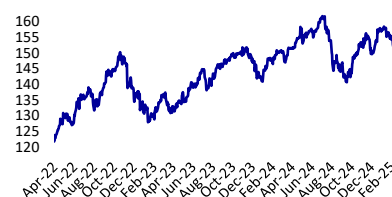


市場動向

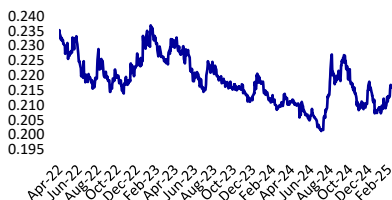
■USD/TWD



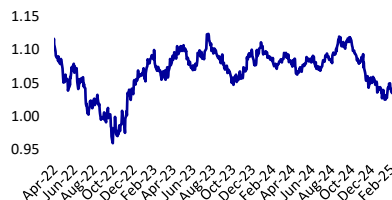
■USD/JPY



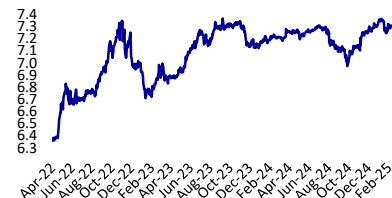
■JPY/TWD



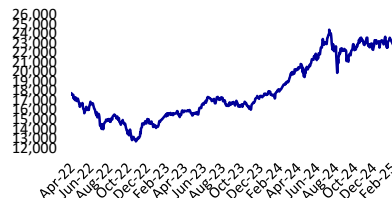
■EUR/USD



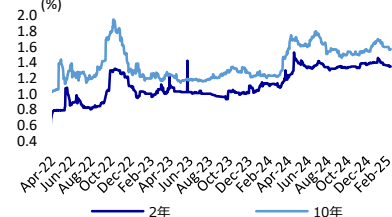
■USD/CNH



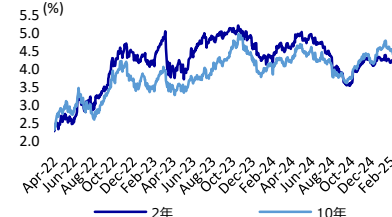
■台湾加権指数



■台湾国債利回り



■米国債利回り



先週の市場動向

■USD/TWD

先週のドル/台湾ドルは上昇。週初2/3は32.790でオープン後、半導体関連株をはじめ、台湾株の売りが強まったことを受け、台湾ドルも売り優勢の展開。また、トランプ政権の関税政策もアジア通貨の売り材料となり、ドルは一時33.158まで上昇。2/4は、リスク資産の持ち直しで台湾ドルのサポート材料となったが、中国当局は米国に対し報復関税を実施するとの報道が流れ、ドルは一時33.054まで上昇。2/5は、薄商いの中、海外市場におけるドル安が進行し、台湾ドルは堅調に推移。2/6は、特段材料がない中、堅調なリスク資産が台湾ドルのサポート材料となり、ドルは終始上値重い展開。2/7は米雇用統計を控え、様子見ムードが強い中、外資による台湾ドル買いがやや優勢となり、ドルは32.75価格近辺まで反落。2/8は台湾のみの土曜出勤ですが、台湾株も休場となったため、激薄商いの中、ドルは概ね32.80を中心に上下。最終的には前々週比0.32%ドル高台湾ドル安の32.786で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は471.7億台湾ドル。

■USD/JPY

先週のドル/円は下落。週初2/3は154.78でオープン後、トランプ大統領の関税発動宣言でリスクオフの動きが円買い材料となり、ドルは一時154円台前半まで下落。2/4は、中国の報復関税の発表がリスクオフの円買いにつながり、ドルは一時155円割れ。欧米時間では、米求人件数下振れで米金利が低下したことを受け、ドルが全般に下落。2/5、米債利回りの低下に加え、賃金上昇に対する期待から、日銀利上げ観測の高まりを受け、円が全面高となり、ドル円は一時152円台前半まで調整。2/6、日銀の田村審議委員は少なくとも中立金利下限である1%程度までは短期金利を引き上げる意向を示したことで、円買いが加速し、一時152円割れ水準まで反落。2/7、米雇用統計が強弱混在の結果のなったが、米債利回りの上昇を受け、ドルは一時152円台前半まで上昇。しかし、来週に多くの国に対して相互関税措置を発表するとのトランプ大統領による発言がリスクオフの材料となり、円は再び151円台まで買われた。最終的には前々週比2.96%ドル安円高の151.40で先週の取引を終了。

今週の見通し

■USD/TWD 予想レンジ：32.600-33.100

今週のドル/台湾ドルは上昇を見込む。トランプ政権による関税政策や今週のインフレ指標の発表が注目される中、不透明感によるドル買いが優勢になる予想。

■USD/JPY 予想レンジ：149.50-154.00

今週のドル/円は揉み合いの推移を見込む。トランプ政権による関税政策や今週のインフレ指標の発表を控え、様子見姿勢が強まりやすいだろう。

今週の予定

2/10 (MON)	
2/11 (TUE)	パウルFRB議長の国会証言、東京市場休場
2/12 (WED)	米1月消費者物価
2/13 (THU)	米1月生産者物価
2/14 (FRI)	米1月小売売上高、米1月鉱工業生産

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。